



学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学 院 報

学院報第15号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成24年 1月15日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
<http://www.kochi-reha.ac.jp/>
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション 学院への抱負④

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜りまことに有り難うございます。お陰様で、この学院報も第十五号の発行を迎えることになりました。

平成二十三年度は理学療法学科四十四期生(六九名)、作業療法学科十五期生(三九名)、言語療法学科十一期生(三九名)を新たに迎えた学生総数五二三名でスタートいたしました。そして四月のスポーツ大会、八月のよさこい祭り、十月の学院祭も無事終わりこれらの行事を通して良き友人や先輩との出会い、またクラス・学科あるいは学院生としての絆をより深めることができたように思います。また四年次生は先日(十一月二・三日)、四年間の集大成であります卒業研究の発表会も無事終えることができ、国家試験に向けて少しずつ気合いが入ってきたように思います。前回の学院報(第十四号)で、平成二十三年度は高知リハビリテーション学院の教育環境の拡充・整備へのスタートの年として取り組んで行くことを書かせていただきましたが、少し具体化してまいりました。合同教室、OA実習室等を含めた新しい図書館の建設、多目的運動場、新たな進入学路を作るための土地の確保等が土佐市のご支援をいただきながら進んでおります。平成二十四年

度には実施設計を終わらせ、平成二十五年度中の完成を予定しております。

最後に卒業生の活躍ぶりについて紹介いたします。平成二十三年十月七、八日山梨県で第四十六回日本理学療法士協会全国学術研修大会が開催され、十年ぶりに参加してまいりました。この学術大会の大会長は本学院の第十二期生、小林伸一先生(巨摩共立病院)、また準備委員長は第二十期生、磯野賢先生(甲州リハビリテーション病院)と本学院の卒業生コンビで「原点回帰 再考・今、理学療法士に何が求められているか」をテーマに若手理学療法士の技術探求や基礎知識などを充実させるための研鑽に主眼を置いた内容であり、また最終日には市民公開講座で女優の小山明子さんが「二人三脚で乗り越えた介護の日々(今日も二人で)」と題して、脳卒中で倒れた夫の大島渚さんを、自分自身介護うつを乗り越えながら支えた日々についての体験談などを聞かせていただき、大変中身の濃いすばらしい学術研修大会でありました。平成二十四年の第四十七回全国学術研修大会は鹿児島県で開催されますが本学院の第十一期生梅本 昭英先生(加治木温泉病院)が大会長を務められるということでは是非又参加したいと思っております。

よさこい祭りに参加して

言語療法学科 一年 山崎 梨生

私は幼い頃からよさこい祭りに参加していました
が、学校行事としての参加は初めての経験で、4月に
入学した高知リハビリテーション学院の友達と一緒に
踊れることが、私の夏休みの楽しみの一つになってい
ました。よさこい練習では、よさこい自体が初めての
人も多く難しい振付を覚えるのに苦戦していました
が、笑いもあり、一生懸命さもあり、楽しく協力しあっ
ていました。本番が近づくと練習にも掛け声やボーカ
ルが入り、皆のよさこい祭りのイメージ図がどんどん
作られていきました。本祭2日間は陽が痛いほどの晴
天で、大観衆の前で踊り、笑顔があふれ仲の良さや絆
が深まることが出来て、とても嬉しく楽しかったです。
よさこい祭りが終える頃に皆、むし熱く長かった練習
も短く感じたのではないのでしょうか。よさこい祭りを
通して持てた絆を大事にし、それぞれの同じ夢に向か
い勉学に努力し、また新たな絆を持てるようにしたい
です。



♪★学院★祭♪★

言語療法学科 三年

柏井 薫・森光美緒

私たちは三年間学院祭実行委員とし
て、みんなを引っ張ってきました。一
年次では右も左もわからず先輩につい
ていくことに必死でした。二年次では
一年次よりも仕事が多く忙しくなり、
気持ちに余裕がなくなっていました。
そんな時、クラスのおんなの「頑張っ
て」という声掛けに力を貰いました。
三年次では先輩がいなくなり、実行委
員として学校や委員のみんなを引っ

作業療法学科 三年

松本 大貴

今回の学院祭は私たちの学年にとつ
て最後の学院祭でした。私は三年間、
学際委員を務めました。一年生の時は
初めての学院祭ということで、先輩の
指示に従うことが精一杯でした。二年
生の時には、先輩をサポートしながら
後輩に仕事の内容を教えたりと、学際
委員としての責任感が出てくるよう
になりました。そして、三年生になり、

理学療法学科 二年

三谷 昂

平成二十三年の学院祭は自分にとつ
てとても忙しい学院祭となりました。
初めて学際委員を務め、当日だけ
はなく準備の段階から学院祭に関わ
てきました。四月で早速委員の顔合わ
せがあり四月、五月、六月と打ち合
せをして、七月、八月、九月は学院祭

張っていけるのか、無事に学院祭を終
えることができるのかと不安でした。
しかし委員長をはじめとした委員のみ
んなと協力し合い、無事に最後の学院
祭を終えることができました。委員を
経験したことで協力することの大切さ
や引っ張っていくことの難しさなど多
くのことを学ぶことができました。至
らない点もあつたかと思いますが、と
てもいい経験ができました。教職員・
地域の皆様、また学生の皆さん、あり
がとうございました。

学院祭の中心として後輩たちを引っ
張っていかないといけないという責任
感がさらに増してきました。三年間、
学際委員として活動したことは、とて
もいい経験になりました。

最後のクラス自慢で入賞することは
できませんでしたが、クラスが今まで
以上に一つになることができ、クラス
全員の最高の思い出になりました。
協力して下さった地域のみなさんや
学生のみなさん、有難うございました。

を支えてくださった各スポンサー様の
所へ行き挨拶をしてきました。十月に
なると準備は急ピッチで進められ、当
日を迎えました。学院祭当日では、皆
さんが楽しそうにしているのを見て、
この半年間頑張つてよかったと思えま
した。また皆さんのためだけにではなく
自分のためにもなつた半年間だつたよ
うに思えます。貴重な体験をさせてい
ただきありがとうございます。



学院祭を終えて

学院祭実行委員長
作業療法学科 三年 小林友里恵

一日間にわたり、各クラスでの出店や外部の方も自由に参加できるビンゴ大会、学生により企画されたクラス自慢や、カラオケ大会など多くの催しを運営いたしました。当日は、様々な場面でクラスの団結力や仲の良さがみられ、また地域の方々や先輩方にも立ち寄って頂き、大盛況でありました。『龍馬さんにも負けんぜよ！高知リハ学祭!!』というスローガンにあるように、龍馬さんにも負けないくらいの明るく楽しい、高知リハらしい学院祭になったのではないかと思います。

私は過去二回実行委員として学院祭に参加し、今年度は委員長として学院祭を創っていく立場となり、企画や運営をしていく中で、学院祭を成功させる事に対してのプレッシャーや不安もありましたが、大きなハブニングもなく無事成功させる事ができたのは、半年間共に活動してきた実行委員、学生、先生方や地域の方々のご協力があったからこそだと思います。本当にありがとうございました。



学院祭実行委員

学生生活について

言語療法学科 二年

田中佐和子

入学してから、早くも二年生が終わろうとしています。この二年間は、沢山の友達と出会い、様々なことを学び、私にとって大変充実したものでした。

一年生の時はまとまりがなく、中途半端に終わってしまった学院祭も、二年次には、模擬店の準備も皆で行い、クラス自慢の練習は放課後や夏休みに皆で集まり頑張りました。その甲斐あってか、二位という成績を収めることが出来、本当に嬉しかったです。学院祭

作業療法学科 二年

川村 史彦

私は、ある事がキツカケで医療関係の仕事に就きたいと思い、作業療法学科を選択し入学しました。初めての講義、初めての友達と本当に新しい出会いばかりでドキドキの連続だった事を覚えています。今ではクラスの仲間とも良い友好関係が取れ、充実した毎日を通っています。

二年生になり、基礎から応用へ講義内容も変化しとても難しくなりました。夏休みの期

理学療法学科 二年

片田 秦椰

入学して一年九ヶ月、これまでに色々な事がありました。入学当時は学校を続けることができるか、一人暮らしができるか、勉強についていけるかなど様々な不安がありました。先輩方や友達に助けていただき、それらの不安を乗り越えることができました。

二年生になるとクラス替えがあり、ADLやROM、MMTなどの実技やグループ学習も始まり、人と接する機会も多くなりました。

を通じて、クラス皆の絆をより深めることが出来たと感じました。

勉学は、言語聴覚士に必要とされる専門的分野の科目が多くなる為、ついていけるかどうか不安でしたが、先生方のご指導、先輩方や友人の助けによって、今まで頑張ることができました。これからも日々精進していきたいと思えます。

今年からは学院生活の後半になり、実習やゼミ活動などが新たに加わります。クラスの皆と励まし合いながら、自分自身も一層の努力を重ね、頑張っていきたいと思えます。

間中には二週間の見学実習があり、見学実習での経験は、私のこれからの取り組みに対する姿勢を根本から変化させ、一段と「作業療法士になりたい」という思いを強くさせてくれました。また私は先輩や先生、後輩達との交流を図るための親睦会の幹事も務めています。忙しい仕事ですがやりがいがあり、良い経験を積む事ができています。これからまた一段と忙しくなり、楽しい事はばかりが続くとは限らないでしょう。ですが、苦しい事も楽しみに変えて前向きに一步一步、夢に向かって進んでいきたいです。

分からないことだらけでしたが、周りの人に助けをもらいながら行っています。二年生では毎週テストがあり、一年生に比べて格段に学習量が増え、自由な時間が少ないのですが、一番楽しく充実した学生生活を送っています。

私がこの学校に来て一番感じたことは、人との繋がりの大切さです。それは学校生活、サークル活動、病院見学実習の時など様々な場面で感じました。今後もこのことを大切にしながら学校生活を送っていききたいです。

レクリエーション大会

理学療法学科 二年 石元 誠幸



総合優勝：3年作業療法学科

平成二十三年度のレクリエーション大会の委員長を務めさせて頂きましたPT学科二年の石元誠幸です。今回のレクリエーション大会は競技数を少し増やして行いました。バスケやバレー、ソフトボールなどの団体競技が多いこともあって、各クラス団結し協力して練習していました。本番では、各クラスとも練習の成果を出し、優勝を目指して一致団結していました。また、勉強の合間を縫って四年生にも参加してもらい、より一層大会が盛り上がりました。一年生は入学して初めてのイベントで戸惑うこともあったと思いますが、この大会を通して友達との絆が深まったと思います。最後に、僕自身初めてのレクリエーション委員長という立場に立ち、分らない部分が多く、迷惑をかけたことが多かったと思いますが、他の

委員や先輩方にサポートしてもらいレクリエーション大会を無事に成功することが出来ました。今年も昨年以上に盛り上がることを期待しています。

クラブ紹介

【剣道サークル】

理学療法学科 三年 山本 漣

剣道サークルは毎週火曜日に講堂で活動しています。

参加は毎回自由なので、集まったメンバーで四十分程度稽古し、その後は話をしたり情報交換をしたりしています。経験者だけでなく初心者も何人かいて、防具を付けずに竹刀を振ったり、見学をしたり、仲間と交流をしてくれる人もいます。また、年に三回ほど一般の大会に出場しています。学院の友達や先輩、先生方も応援に来てくださり、今年は団体戦では三位という結果を収めることができました。学外での活動としては、高知大学・工科大・高専・県立大の剣道部との合同練習や練習試合も行っています。部員は十数名とやや少ないので、今後新入生が増えて更ににぎやかなサークルになると嬉しいです。



大綱祭りに参加して

理学療法学科 一年 森 弘子

去年の八月二十日に大綱祭りに参加しましたが、想像よりも遥かに人が多くにぎわっている事に驚きました。恒例行事の餅投げに友達と参加して、いっぱい餅やお菓子などを拾いました。あの時の他の人たちの熱気に私は再び驚かされました。今回私が参加したのは、学院の代表の一人としてよさこいに出る為でした。本祭を終えてから一週間ぶりに踊れる機会をもらい、ドキドキしながらも楽しく踊らせてもらいました。今年入ってくる新一年生にも、是非、大綱祭りに参加して、各競技やよさこいを楽しんでもらいたいです。



知つとせ

《それから第14回の巻》

国家試験

理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）として病院や診療所などの医療機関へ就職するためには、それぞれの免許が必要です。免許は、国が認めた証（厚生労働省が認めた国家資格）であって、卒業するだけでは取得できず、国家試験に合格する必要があります。

近年は、国家試験はPT・OTが二月の第四日曜日、STが二月の第二土曜日に行われ、合格発表は三月の末になっていきます。国家試験を受けるためには学院を卒業している必要がありますが、試験日が卒業前のため卒業見込みにてとりあえず受験して、卒業式後に学院が卒業証書を提出して有効となります。試験は一日かけて行われますが、本学院の学生は、PT・OTは高松で、STは大阪で受験します。内容は基礎医学（解剖学など）と臨床医学（内科学など）とそれぞれの専門科目で、形式は筆答試験（ペーパーテスト）です。なお、六〇%の正答率が一応の合格点（公表されていません）になります。

ただし、国家試験に合格するだけでは免許を取得したことにならず、PT・OTでは保健所（高知県では福祉保健所）にて、STは医療研修推進財団へ、合格通知書添えて申請手続きをしなければなりません。申請すること、厚生労働省でPT・OT・STそれぞれの名簿に登録されて免許番号が交付され、しばらくして免許証が発行されて各自に送られてきます。

そして、免許番号を勤務する病院や診療所に届ければ、医療機関は医療保険（健康保険や国民健康保険など）での診療報酬（診察や治療の代金）がとれるようになります。（教務部 山本）

))) 教員紹介 (((



言語療法学科 吉村知佐子

私は、高知リハビリテーション学院に勤めるようになって五年目を迎えました。二年目から言語療法学科二期生の担任になり、現在、その二期生も四年生になりました。二期生が入学した当初は、元氣いっぱい本当に楽しく遊んでいました。社会人になると意識や学業等、心配してしまいましたが今は個々でしっかり学び成長しています。特に、五月から八月までの臨床実習では、多くの先生方からたくさ



作業療法学科 有光 一樹

今年度は、作業療法学科四年次生補導主任をしています。主な担当科目は、運動系の構造と機能や機能演習といった運動に関する骨や筋肉の構造に関する授業や健康科学という授業で近隣の小学生に身体測定を実施する。また、身体障害に関する治療について基礎となるような授業を受け持っています。主に一年生の授業を多く担当しています。専門学校



理学療法学科 稲岡 忠勝

こんにちは。理学療法学科の稲岡と申します。本学院の「だいがく」の卒業生で、理学療法士としていくつかの病院勤務をした後、母校に帰ってきました。

新人のようなあいさつで始まりましたが、実は本学院で勤務させて頂けるようになって四年目になります。まだよちよち歩きではあります。最近の生徒を見てなんとも感じることをお話ししたいなと思えます。私たちが学生の時と比べて職業に対しての意識がほんやりりして、そのために「やらないといけない時にやる」生徒が少なくなっているのです。かくいう私も勉強は好きな方ではないので生徒の気持ちも

んの指導を頂き、言語聴覚士になりたいという気持ちが大きくなり、眼の輝きが増して学校に帰ってきました。お忙しい中、実習を引き受けていただきました先生方ありがとうございます。二期生は今、クラス全員が合格できるような国家試験の勉強に励んでいます。沢山の教科で投げ出したくなる時期ですが、クラスで小さな目標をたて頑張るよう指導していただきます。どうぞこれからも変わらぬご指導、御鞭撻くださいませようお願いします。

法が必要になります。学生は、難しさや戸惑いを感じることが多く、そういった場面もよく見えます。その学生達にどのように教示し、また主体的な環境作りが必要かなど学生の勉強する環境作りについて検討している所です。専門分野は、身体障害に関わる作業療法であり、最近では病院以外にも通所サービスにも関与させていた。利用者の気持ちを大事に主体的な生活を過ごせるような関わりを心掛けています。

非常に分かりやすく、学生当時のことを考えるととても素敵な偉そうなことを言えませんが、私を含め、周りの同級生や先輩、後輩は「理学療法士になりたい、ならなきゃいけない」という気持ちももつと強かったと感じています。未熟な私が言ったり説得力がないかもしれませんが、学問と職業は「大好き」でないと続かないと思うのです。もちろんそのような問題は生徒だけに問題があるわけではなく、我々教員が講義の時にももちろんのこと、それ以外では足りないのだと思っています。また、苦勞を伝えることが下手、または足りないのだと思っています。講義内容や学生とふれあう時間を大切に、引き続き頑張っていきたいと思っています。

保健室だより

上村 孝子

相変らず寒い日が続きます。この時期は、空気が乾燥し、ウイルスが活発になるため、風邪やインフルエンザが流行しやすいです。手洗い・うがいをこまめに行い、体の調子が「何となく不調」と感じた時には、無理をせず早めに休息をとるように心がけましょう。今回のおすすめ健康法「笑う」についてお話しします。

「笑う門には福来る」
笑いは副作用のない健康法。健康にとってもよい効果があります。悲しい気持ちの時、落ちこんだときにもふとしたことで笑えると、それだけで元気がますますよくなります。笑うと免疫力がアップする。ということがあります。耳にしたことがある方もいるのではないでしょうか。「笑う」という良い情報が脳に伝えられることで、NK（ナチュラルキラー）細胞という白血球をつくるリンパ球の一種が活性化されるのです。この細胞は全身に五十億個存在して、ガン細胞を攻撃する働きを持って、活発に働いていると、ガンや感染症などの病気にかかりにくくなるといわれています。笑えない状況もあるかもしれませんが、しかし、笑えないときにこそ、気持ちを切り替えて笑ってみてください。思い出し笑いで、作り笑いでかまいません。思いっきり笑って、心も体も健康になりましょう。

図書館だより

依光 朋子

今回は、図書館カウンターで実施しているサービスについて紹介します。カウンターでは、貸出・返却に始まり、学生の皆さんからの質問・探している本が見当たらない、「文献検索の仕方を教えてほしい」、「読みたい本を予約したい」などの様々な声に答えています。

実は、その他にも提供しているサービスがあります。その一つが「国試問題 問一答」。毎日一問ずつ、三学科共通の解剖学や生理学分野から出題しています。二年ほど前から四年生対象で出題していたのですが、興味のある三年生も参加ははじめ、口コミ的な広がりをみせていました。今年度は、四年生は口試的なこと三年生だけでなく、一年生にも挑戦者が現れました。問題の答えに一喜一憂したり、正答率を意識したりと、楽しんで問題を解いてくれているようです。毎日利用してくれるので、カウンター越しのコミュニケーションも、利用者数も増加し、嬉しく思っています。

図書館では引き続き、学習のサポートができる環境を作っていきますので、皆さん是非利用してくださいね。最後に、「国試問題 問一答」は正解が五つたまるという粗品が貰えるというお得なルールです。興味のある方はチャレンジを！

カウンターサービスについて

全国で活躍する卒業生シリーズ⑮

「臨床の現場に立ち」

もみのき病院勤務
作業療法学科十一期生

黒川 梓乃



私は、リハビリテーションという言葉に憧れて高知リハに入学したのですが、学生生活はなかなか大変なものでした。元々のマイペースでのんびりした性格も影響し、膨大な量の学習は処理可能な許容量を超え、先生方の講義は理解の範疇を超え、気付けば授業が終わっていた、という大変な事態もあつた程です。生まれ持った不器用な性格は簡単に変わるものではありませんでしたが、学生生活や臨床実習を通して、同期や先生方、現場のスタッフの方々等、沢山の人に支えて頂き、今、セラピストとして臨床に立つ事が出来ています。

臨床に就いてからも紆余曲折ありましたが、早いもので五年が経ちました。脳卒中や整形疾患を中心とした領域で二年を回復期、三年を急性期で過ごし、諸先生方のご協力もあつて県学会、四国学会、全国学会と研究発表をさせて頂く機会にも恵まれました。

本当に、臨床は学びの日々であると思います。回復期では、片麻痺や高次脳機能障害を持ちながら今後地域での生活に戻られる方、そのご家族のサポートや住環境整備を、急性期では全身状態の管理や安静度に応じた離床、廃用症候群の予防、ADLの拡大といった分野に携わってきました。また、最近では、緩和ケアにも関わらせて頂くようになり、末期癌という限られた時間の中で生きる方々に寄り添いながら作業療法を

提供していく、という難しさを痛感している日々です。

臨床には、援助を必要とする多くの対象者の方がおられますが、その方を囲む人的・物的環境により、それぞれの「生活」はケースバイケースで異なつてきます。だからこそ、自分が関わるおひとりおひとりのニーズや課題を把握し、他職種や必要であれば地域スタッフとも連携し、柔軟に対応していかなければなりません。その為には、作業療法士としての確かな目を持ち、治療技術はもちろん幅広い知識や経験、人との関わりを大切にする必要があると思つています。私は、普段、さまざまな作業活動、アクトや福祉用具を治療手段として用いますが、そうしたものを媒介に、一人の人として、対象者の方やご家族の方と「生活」に関わらせて頂いています。

最後に、人との関わりは、自分自身をも成長させてくれます。私たちは「ありがとう」という言葉をよく頂きますが、これは、魔法の言葉だと思いません。どんなに疲れていても、迷っている時もこの言葉を聞くと、前向きに向き合つ力が湧いてきます。同時に、「ありがとう」といつて頂けるだけの自分でなければなりません。作業療法士としての責任を感じます。まだまだ発展途上の私ですが、「ありがとう」の言葉に応えられる作業療法士を目指して頑張つていきたいと思つています。

就職合同説明会の

報告について

就職指導委員会

委員長 平賀 康嗣

十月二十九日(土)に実施した平成二十三年度就職合同説明会は、平成二十年度二六施設、平成二十一年度三三施設、平成二十二年四一施設そして今年度が四八施設と過去最多となつており、今回も前回に引き続き講堂だけでは入りきれないため食堂も使用して実施した。

就職合同説明会に参加した施設側の担当者の中には、「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士すべて募集しているのは是非来て欲しい」と訴える施設も依然として存在するが、昨年度から「何が何でも作業療法学科の学生に就職していただきたい」と切実に訴える声が多くなつてきた。就職氷河期のニュースが多く流れる現状

を考えれば正に別世界と言える。

就職合同説明会に参加した学生は、理学療法学科五三名、作業療法学科四一名、言語療法学科一九名であり、卒業生も参加する格好となつたが、積極的に話を聞きに行こうとする学生も昨年度以上となり、施設側からは「話を聞きに来る学生も多く、来て良かった」とのコメントも多かつた。学生からは、高知リハビリテーション学院卒業生及び現場の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が説明担当者になつている施設については「話やすく、就職に対する視野が広がった」とのコメントも多かつた。

実習終了の時期が遅くなつてきたこともあり、就職合同説明会が年々遅くなつているのにも関わらず多くの参加があつたことは喜ばしいことではあるが、近い将来訪れる可能性のある就職氷河期を考慮して就職合同説明会を継続していきたい。

平成23年度
後期行事予定表

10月3日	後期授業開始
10月9・10日	学院祭
12月9日～15日	後期定期試験 (3年次生)
12月21日	冬期休業入
1月7日	冬期休業終了
1月23日	学園記念日
2月9日～17日	後期定期試験 (1・2年次生)
2月18日	国家試験(ST)
2月26日	国家試験 (PT・OT)
3月11日	卒業式
3月21日	春期休業入